

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての基本理念と一緒にいつでも確認できるように額に掲げている。住み慣れた地域で人と人との関係を大切に、その人らしく安心して暮らしていけるように職員全員で実践している。	法人の基本理念、ホームの独自理念は来訪者にもわかるように掲示し、姿勢を明確にしている。また、月1回の法人全体会議で「理念」「15項目からなる利用者に対する宣言」「抑制と安全に関する宣言」を唱和し共有と実践に繋げている。合わせて法人の行動規範として6つの実践を定め、毎月2項目ずつ取り組み支援の向上に繋げている。更に、管理者が法人の将来について考える「アザレアさなだを考える会」のメンバーとしても活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に所属することで、地域の行事等への参加や、ごみステーション掃除、草刈り、花壇の水やり、等にも参加している。散歩中、皆さんから声をかけてくださったり地域の方から野菜を頂いたりと交流をしている。	自治会費を納め地域の一員として活動している。管理者が地区の総会や新年会にも出席し可能な行事には積極的に参加しホームのことを知っていただき、顔の見える関係作りに取り組んでいる。更に来年度は区組織の中の「伍長」が回ってくる番でもあり、役割を通し一層地域との繋がりが強くなるようにと準備している。回覧板も回して頂き、年2回行われる清掃活動や防災訓練、どんど焼き等にも参加している。また、中学生のサマーチャレンジや大学生の職場実習の受け入れもを行い、傾聴中心に利用者とは交流して頂いている。合わせて下原地区自治会の「折り紙ボランティア」の皆様が来訪され、敬老会の席札を折り紙で作ってプレゼントするなど、利用者からも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会の行事等で、認知症の人への正しい理解の為に啓蒙活動を行っている。29年度には自治会にて認知症サポーター養成講座を開催し、多くの方々に参加して頂いた事で理解を深める事ができた。地域や外部の方々からの問い合わせや相談事に、常時お受けするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域とグループホームお互いの事を理解していくために、2ヶ月に1回開催し、近況報告や今後の予定等意見交換や助言を頂いている。地域との共通認識である高齢化社会についてどのような地域づくりが良いのかメンバーと検討している。	自治会長、長寿会長、市高齢者福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生委員、福祉推進委員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。また、家族にも会議案内を出し、出席をお願いしている。ホームの近況や事業計画などを報告し、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。自治会や地域包括支援センターと連携を深め「認知症サポーター養成講座」開催についての提案も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を平日に開催し、市の担当者や地域包括センターの職員の方に毎回出席頂き、行事のお誘いやご意見や助言を頂いている。	法人と地域包括支援センターが連携し月1回行っている「子供食堂」に管理者が参加し地域の子ども達とふれあう機会を持っている。また、「真田町歩こうウォーキング」の休憩場所になっており参加者と交流している。市の介護相談員の来訪が2ヶ月に1回あり、利用者と傾聴中心に関わり、気づいた事柄については口頭での報告があり支援に役立てている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い、立ち会われる家族も半数ほどおり、調査員と話をされている。	

下原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間就寝前以外は施錠はしていない。全ての職員が、危険箇所を把握し、安全を確保している。行動を抑えたり、辞めさせるのではなく、なぜその行動をしているのか理由を考え、理由に対してケアし可能な限り自由に生活していただけるような支援を行っている。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。離脱傾向の強い利用者も数名いるがその理由を探り外を散歩したりし対応している。1ユニット6名ずつという小規模なホームなのできめ細かく所在確認を行うことで危険を回避し、センサー類も使用せず、言葉遣いにも気を付け気持ち良く過ごしてけるようにしている。年1回法人の研修会があり、2～3ヶ月に1回カンファレンスの中で身体拘束委員会を開き意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体としても虐待についての勉強会を行い、虐待について理解を深め遵守するよう努めている。職員全体会議を通じ、アザレアン宣言の読み合わせを行い日頃のケアについて振り返る機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している方もいらっしゃる。後見人の方の役割、必要性については理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用されるにあたり見学をしていただいたり、契約の内容について時間をとって説明している。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携については詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、来所時や電話などでご意見やご要望を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。又、介護相談員の訪問もありご利用者が気軽に外部の方に相談できるように配慮している。	言葉で意思表示の出来る利用者は半数位という状況であり、関わりの中で得た情報や表情より希望を受け止め支援に取り組んでいる。家族の来訪は毎日来られる方から週1回～月1・2回と家族の都合で幅広くなっている。来訪の際には日頃の状況を話し、利用者と一緒に写真を撮るなど、利用者との時間を大事にされている。また、誕生日には「ケーキ」を持って来訪される方もおり、母の日には「花」のプレゼントをされる家族もいる。2～3ヶ月に1回、家族に対して利用者の状況を電話で報告している。	利用者一人ひとりの状況をお知らせする「個人別お便り」の配布や利用者家族がホームに集り利用者を囲み過ごす「家族会」のような機会を設けられることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフの意見や提案を聞くように心がけている。日々の会話からも感じ取れるようこちらから声をかけ話を聞くように心掛けている。ご利用者との日常的な関わりの中から生まれる、職員の気付きやアイデアは積極的に取り入れている。	月1回、一人ひとりの利用者のカンファレンスを行い、看取り、口腔ケアの勉強会等もやっている。必要に応じホーム会議を行い、「人材育成、チャレンジテーマ」等の話し合いを行っている。人事考課制度があり年1回、職員が目標を作成し、自己評価を行い、法人業務部長による個人面談が行われスキルアップに繋げている。更に、年2回ストレスチェックも行われ、メンタルケアにも配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面接を行い個々の努力や実績、悩み等把握するよう努めている。健康診断の実施等心身の健康を保つための対応もしている。職員の資格取得についても積極的にバックアップしている。		

下原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体会議が毎月あり、施設内研修会も実施されている。ケアの現場から学びを深められるようにコミュニケーションを図っている。外部の研修会も参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの連絡会があり、相互に訪問して共にサービスの質を向上する活動や勉強会ネットワークづくりを行っている。親睦会も行われ、同業者との交流は盛んに行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人とご家族に何回かお会いして生活情報や心身の状況、これからどのようにしていきたいのかご希望を聞くなどして安心が得られるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。相談にいらしたご家族の立場に立ってしっかりと話を聴き、気持ちを受け止めながら信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族双方の思いや状況を確認し、グループホームでできること・できないことを具体的にし、本人にとってのベストが選択できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側の関係でなく一緒に暮らし喜怒哀楽を共にするパートナーのような関係でありたいと考えている。出来ることに着目し、楽しみながらやって頂き、関わりの中でご利用者から、いたわりや励ましを頂くこともあり、よりよい関係作りを努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	用事がないと来ていただけないご家族や、家庭環境により仕方ないご家庭もあるが、家族との関係性が細くならないように、こまめにコミュニケーションをとりともに支える関係づくりを行って		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や馴染の人が訪れたり、馴染の場所に出出をしたり、地域の馴染みの店に買い物に出掛けたり、地域の行事に参加することで、出来るだけ関わりが途切れない支援に努力している。	高齢化に伴い友人の来訪は減ってきているが、親戚、お孫さんなどの来訪があり、「誕生日」「母の日」「敬老の日」等には賑やかに過ごされている。また、家族と馴染みの美容院に行かれる方もおり、楽しみにしている。合わせて交代で近くの馴染みのスーパーに食材の買い出しにも出掛け、外の空気に触れている。更に今年末には利用者個々の年賀状を作成し家族に発送予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごす時間や気の合う方同士で過ごす時間を作るなど関係が上手いくように努めている。心身の状態や気分が日々変動するのでトラブルが生じることもあるが、原因を探りそのような状況にならないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されると疎遠になりがちだが、お亡くなりになった方のご葬儀や新盆にはお参りさせて頂くようにしている。また、長期入院等により退居された方に面会に行ったりと良い関係が継続できるよう努力していきたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で関わりから得られた情報を大切にし思いや意向の把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し量り、一人ひとりの意思を尊重している。ご家族からも情報を得るように努めている。	意向を表出できる方、出来ない方がいるが、それぞれ日々のかかわりの中から表情や行動を見たり、バイタルチェックからも体調を考慮し、入居時に家族からお聞きした生活歴からも「好きなこと」「嫌なこと」を拾い上げ、「飲物選び」「洋服選び」等、意向に沿った支援に取り組んでいる。合わせて日々の気づいた言動等はケア記録として纏め、就業前に目を通し申し送りでも確認し合い支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に本人やご家族から情報を頂いている。その方にとってのこれからの暮らしはこれまでの暮らしの延長と捉えて、必要な情報の収集に努めている。入居後も機会のあるごとにお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている	総合記録シートで24時間の様子を記録し、一日の過ごし方、心身の状態の把握に努めている。モニタリングの時期には本人の力をアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の日頃の様子や状態を、ご家族や関係者に伝え、話し合い、日頃からの関わりの中で、ご本人の思いや意見を聴き反映させるようにしている。ご本人の意向に沿った介護計画にしていきたいと考えている。	家族の意向は入居時、来訪時、状況に変化が見られる時、プラン見直し時期などにお聞きしている。カンファレンスで職員の見直しを行い、管理者と介護支援専門員がモニタリングを行いプランを作成している。入居時は3ヶ月での見直しを行い、長期を通常6ヶ月とし、状態が安定している場合は長期目標を1年とし見直し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートを活用し、お年寄りの状態の変化や日々のケアでの気づき、出来る事、食量や水分量の記録を行う事で、スタッフ間の情報の共有化を図っている。総合記録シートをもとに介護計画の見直し評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その場の状況での思いを確認しながら、必要なケアの提供に努めている。また、ショートステイの利用者を受け入れ在宅支援を行い事業所の多機能化に取り組んだ。		

下原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のご協力をいただき、自治会の行事に参加したり、馴染みのスーパーで食材などの買い物がお年寄りの楽しみにもなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族のご希望に沿ったかかりつけ医と連携をしている。職員のみでは不可能な受診はご家族にも協力いただいている。訪問診療に来ていただくケースもあり医療機関からの情報は個人記録に記載し情報の共有を心掛けている。	利用契約時に医療機関についての希望をお聞きし希望に沿った支援に取り組んでいる。現在入居前からのかかりつけ医利用の方は四分の一ほどで家族対応で受診されている方もいる。また、ほぼ半数以上の利用者はホーム協力医の月1回の往診で対応している。更に、法人の看護師が週1回来訪し、健康管理に合わせ医師との連携を図り、万全な医療体制を整えている。合わせて法人の歯科衛生士と連携をとり必要な知識を学び、歯科への受診についてもアドバイスしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を頂き、日常的に連携が取れている。それらから協力医療機関との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化してから入院にならないように状態の変化に早期発見できるように努めている。入院時にはなるべく多く見舞うようにし、病院側、ご家族との情報交換や意見交換を行いながら早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う介護についての同意書で指針の説明をし同意をいただき、ご家族、医師、看護師を交えた話し合いを行いご本人やご家族のご希望やお気持ちに沿った方針で支援を行っている。随時状態の変化をお伝えし相談、意思確認しながら納得できる最期を迎えられるように取り組んでいる。	重度化に対する指針があり利用契約時に説明し同意を頂いている。終末期に到った時、家族、医師、看護師、ホーム職員で話し合い、家族の意向も確認し改めて看取りに対する同意書にサインを頂き支援に取り組んでいる。看取りに対しては居室に好きだった音楽などを流し家族と一緒に過ごせるような雰囲気作りをし、最期の時を迎えるお手伝いをしている。2ユニットになってからの8年間で6名の方の看取りを行い、利用者、職員全員でお見送りをしている。また、看取り後のカンファレンスで振り返り、次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て全体会議で救急救命法の講義を受け対応できるように努めている。緊急連絡網や対応マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災マップに載せてもらい、有事の際はお互いが協力できるよう、運営推進会議で行政、地域の委員と協議している。 市の大規模災害想定訓練にも自治会の皆様と一緒に参加し協力体制の構築に努めている。	年2回、春と秋に防災訓練を行っている。地震や火災に對しての夜間想定避難訓練を中心に行い、利用者が寝ているという状況を設定し夜勤者一人を外へ避難させる訓練を昼の時間を使って実施している。管理者が地域消防団の団員でもあり、水消火器を使っての消火訓練、通報訓練も合わせて実施している。備蓄として「ガスコンロ」「水」「お米」「ランタン」等が準備されている。	台風19号の災害を受けて当ホームも避難指示が出た。水害対策、土砂災害等について実際に則した避難訓練を計画し実施されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お年寄り一人ひとり大切に考え、その人に合った声掛けとプライバシーに配慮した支援を心掛けている。職員同士気がついた点は声を掛け合い、申し送り等で確認している。	6つの実践の中にある「オアシス運動」「ありがとうを言葉で伝える」を大切に、利用者の気持ちを尊重し日々接するよう心掛けている。特に利用者の中で本人の話をしないという配慮をし、入浴、トイレ介助は見えないように心掛け、プライバシーに配慮している。声掛けは入居時に希望をお聞きし、利用者に合わせて、苗字、名前などを「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お年寄りの意思や希望を大切にしている。意思を確認し、希望されない事は無理強いすることがないようにしている。言葉では十分に意思表示できない場合でも表情や反応を注意深く、把握に努めながら自己決定できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りが主体と考えており、お年寄りの希望やペースを最優先するようにしている。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し個別的な関わりを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣や好みに合わせ身だしなみは大切に考えている。女性の方はお出かけなどの時お化粧をして綺麗になって出掛けたり、好みの服装でおしゃれをすることがご本人やご家族にとっても嬉しい事と考え実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と相談したり、一緒に買い物に出掛けて献立を決めるようにしたり、出来る事、やりたいことを一緒に行っている。職員とご利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	自力摂取の方が三分の一、一部介助の方が半数、全介助の方が若干名という状況である。「美味しく、楽しく」を基本に、職員も一つの食卓を囲み会話をしながら寛いだ時間を過ごしている。献立は利用者の希望も聞きながら冷蔵庫の食材で職員が考え調理している。また、チラシを見て希望の物を買出ししたり、正月、クリスマス、雑祭り等の行事には季節感が味わえる献立を考えお出ししている。利用者の中でお手伝いができる方には下準備、盛り付け、片付けなどに参加していただいている。また、家族と外食に出掛ける方も数名いる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録シートで食事量・水分量・排泄の記録からinとoutを把握し一人ひとりの状態や習慣に応じた支援に取り組んでいる。		

下原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向をふまえ、個別に働きかけを行っている。口腔ケアの勉強会を行い、自分でできる方は見守りし、出来ない方に関しては本人に応じた口腔ケアを行っている。また、訪問歯科の指導も行っている。夜間は義歯は義歯洗浄剤につけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別記録を参考に時間を見計らったり、様子を察知し、トイレ誘導、おむつ交換等の支援を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、排泄グッズをご本人に合わせて検討をし、極力ご本人が傷つかないように配慮している。	自立されている方は四分の一ほどで、一部介助の方が半数強、全介助が若干名となっている。排泄記録で24時間のパターンを掴み、一人ひとりに合わせトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるようにしている。合わせて水分摂取量についても1週間分のデータを把握し、排泄の介助に活かしている。排便促進についてもそば茶、麦茶、玄米茶等を摂取するとともに、乳製品、スポーツドリンク等の水分補給も勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方に限らず十分な水分補給と、食物繊維を含む食事提供をしている。買い物に出掛けたり、洗濯ものを干したり取り込んだり、散歩に出掛けたりすることで自然に体を動かせるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助が必要な方が以前より増えてきたので、必要に応じてリフト浴を使い安全に気持ちよく入浴できるように努めている。一日2~3人、時間をゆっくりとって入浴していただいている。	広々とした浴室は木目を基調とした造りでリフト浴も完備され週2回~3回の入浴を行っている。全利用者が介助を必要としている状況で、職員二人での介助が必要な方が数名おり、リフト浴使用の方も半数強いる。1日あたり2人の入浴でゆっくり時間を取り、30分~1時間ほど入っている。気分によって入りたくないという方もいるが日を変えて入浴されている。季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等も用い、季節感を感じられるように楽しい入浴を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に活動していただき安眠できるように心掛けている。寝むれない方には就寝時間にこだわらず、眠りたくなるまで居間などで温かい飲み物を一緒に飲んだりしながら過ごしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効能、副作用の説明をファイルに保管し内容を把握できるようにしている。飲み忘れのないように薬袋に目付を入れ確認している。状態の変化が見られた時は詳細な記録をとるようにし協力医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、楽しんで出来ることなど負担にならないように配慮しながら支援している。食事の準備、片付け等、お茶の用意、草取り、など各人が出来る事・したいことができるよう、日々の生活に張りがでるよう支援をおこなっている。		

下原グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、ドライブなど出来るだけ外出する機会を多く作るようにしている。地域の行事や用事で出掛けたりもしている。歩行困難な方でも車いすを使ったり戸外に出る事を積極的に支援している。	外出時、自力歩行の方は三分の一で、他の方は車イス使用となっている。平均介護度も高く、日常的にはホームの玄関前に出てお茶を飲みながら外気浴を楽しんだり、ゴミステーションまで散歩をしながら清掃をしている。合わせてホームの中を定期的に歩き機能低下を防いでいる。また、季節に応じ4月の花見、5月の真田お屋敷公園のツツジ見物、秋の紅葉まで外出を楽しみ、少人数に分かれ真田町の中のドライブを楽しみ、外の空気にふれている。	
50		○お金の所持や使うことでの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持てる方には持っていたいでいる。お年寄りがお金を持つことを阻害することなく、店で希望されるものを買って自分で支払いをしていただくことを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にある電話で希望に応じて自由に電話をかけられるように支援している。コードレス電話で自室でもゆっくり話ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が与える影響を考えケアに当たっている。玄関の土間や、畳の居間等和風な作りの為ご利用者には馴染みやすいつくりになっている。季節の花を飾ったり、寒い時期には炬燵を作るなど季節感を感じられるようにし自宅での生活に近い環境で過ごして頂けるように工夫している。	平屋造りの当ホームはふつうの家庭の趣があり、落ち着きを感じられる。玄関に入った広い土間では年末に「餅つき」が行われ、昔の習慣を味わうことが出来る。食堂はこじんまりとした広さで一般家庭の雰囲気を感じられる。畳の居間には仏壇が置かれ、心を落ち着かせる場となっている。また、廊下の壁には外出時などの利用者の写真が多く飾られ、日々の様子を窺うことができる。ホーム内には季節の花も飾られ、そうした中で利用者は自由な生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で気の合った方同士で、楽しくお話しされたり、一人で過ごされたいときはご自分のお部屋で過ごされたりと自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具、大切にしていたものなど入居時にお願している。ご自分なりの整理の仕方、こだわりのある方もいらっしゃるの相談しながら、ご本人にとって居心地の良いお部屋になるように工夫している。	畳敷きの各居室は陽当たりも良く温かさが感じられる。そのような中、使い慣れたタンス、イス、テーブル、テレビ、ラジカセ等が持ちこまれ、壁には家族の写真、職員から送られた誕生日や敬老会などのお祝いカードが飾られ、居心地の良い生活空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたらご自分の力でやっていただけるか」を職員で話し合い、必要に応じてご家族に協力して頂く事もあります。心身機能の状態の変化に考慮して生活環境の改善に取り組んでいる。		